

## 令和4年度当初予算記者発表

令和4年2月17日

大山崎町長 前川 光

皆さん、こんにちは。大山崎町長の前川 光でございます。

本日は、「令和4年度(2022 年度)大山崎町当初予算案記者発表」のご案内をさせていただきましたところ、皆様方には大変お忙しい中を、お集まりいただき誠にありがとうございます。

また平素は、大山崎町政に対しまして、何かとご理解とご協力を賜っておりますことに、この場をお借りいたしまして、心から厚くお礼申し上げます。

それでは、来たる新年度の当初予算案の概要につきまして、お手元の資料に基づき、ご説明申し上げます。

私が町長に就任して早や3年あまりが経過し、令和4年度は私の今任期の最終年となります。

生まれ育った、愛すべきこの大山崎町を、さらにいつそう住みよい町にしたい。1万6千人の住民の皆さんの「心のふるさと」を、ほかでもない住民の皆さんとともに作り上げていきたい。そうした強い決意のもと、この間、まちづくりに尽力してきたところでありますが、その思いを具現化するために、就任以来、私が一貫して主張しておりますのが、「住民参加のまちづくり」であります。

かねてから申し上げているとおり、私の就任前の町政運営については、住民目線が不足していたと感じており、そうした、いわば「住民不在」の状況の解消が、このまちの更なる発展のために不可欠であると確信を持っているところがあります。そうした私の基本姿勢を端的に表すとともに、4年間の任期の中で実現すべき政策目標として設定したのが、表題に掲げております「住民とともに歩むまちの創造」であります。

これまでの任期を振り返りますと、就任後ほどなくして元号が令和に代わり、デジタル化やグローバル化といった潮流がいっそう加速し、文字通り時代が移り変わっていく中、「行政の在り方とは」、「住民の幸福とは」といったことを常に思案し、この町のより良い未来について模索を重ねて参りました。

そんな中、就任2年目に発生した未知の感染症の発生は、予期せぬ事態であり、いささか私の思い描いていた町政運営に軌道修正を強いるものでありました。しかしながら、そうした状況であるからこそ、住民の安心安全を守るという最も基本的な使命を、より深く胸に刻みこんで日々の執務にあたることができたと考えており、その使命感をもとに、その時々々の最善策を講じるため懸命に陣頭指揮を執って参りました。

特に、昨年からはまりましたワクチン接種においては、1万人を超える町民の皆さんを対象に2回の接種を行なうという大きなプロジェクトとなり、試行錯誤の連続でありましたが、職員ともども懸命の努力を積み重ねた結果、最終的には対象人口の9割近い方に2回接種を受けていただくことができました。

これは府内平均や全国平均を上回る数値であり、接種体制構築や周知啓発活動など、全般においてきめ細やかな対応ができた結果であると自負しております。

今また、3回目の追加接種を開始しておりますが、今回も希望するすべての方に、可能な限り迅速かつ円滑に接種いただけるよう、1回目、2回目接種の経験を大いに活かして、鋭意取り組んでいるところであります。

この、コロナによって社会生活が様変わりし、社会のデジタル化が一層加速する一方で、住民のつながりの希薄化といった従来からの課題がより顕在化し、その影響も懸念されるところで、これからの「ポスト・コロナ」に向けて、そうした課題の解消も求められるところであります。

2ページをご覧ください。

こうした昨今の状況を踏まえ、令和4年度の基本コンセプトとして、「確かな未来へ」といたしました。

社会の移り変わりが加速する一方で、感染症の流行や大規模災害の多発など、先行きの不透明感が増す中、住民の安寧のために、この町の、明るく確かな未来を描いて示す必要があるとの認識のもと、定めたものであります。

そして、そこに至る方法論的なスローガンとして、「住民参加で脱炭素」と「自然豊かな子育てのまち」の2つを定めております。

地球環境保全のための取組は、地球規模で待ったなしの状態であり、すべての人が「我がこと」と捉えて行動する必要があります。

本町においても、住民一人一人に問題意識を持っていただき、行動を促したいという思いで、令和2年度に「ゼロカーボンシティ宣言」を表明しておりますが、まずは環境への意識を高めることで、地球環境の保全への貢献、そのこと自体はもとより、そこに向かって行動できる町という特色を持たせ、それを町の強みとしていきたいと考えております。

また、幸いにして近年は、宅地開発に伴う子育て世代の流入が続き、人口も増加傾向にあります。しかし、近い将来、本町においても人口減少は避けられない課題であります。

大都市近郊に位置して生活の利便性が高く、その一方で自然も豊かな町であるという点が、多くの方に選ばれている理由であると分析しておりますが、その強みを今一度、私をはじめ職員一同が自覚して、将来を担う子育て世代に訴求する施策を着実に実行することで、より一層活力のある町をつかって参りたいと考えております。

次のページをお願いいたします。

ただいま申し上げました、基本コンセプトに基づき、5本の重点施策を定めております。

まず1つめが、「公約事業の着実な実施」であります。自校方式での中学校給食について、令和5年度当初からの開始に向けて、着実に準備を進めて参ります。

また、両小学校の給食施設についても、衛生基準に適合した形での給食の実現に向けて、まずは大山崎小学校から準備を進めて参ります。なお、これらに係る予算については、令和3年度3月補正予算に計上しております。

次に、2つめとして、「感染症対策・ポストコロナ対策」であります。

第6波の脅威が現実のものとなっておりますが、早期に3回目の接種を終えるなど、必要な対策を行って参ります。

なお、切れ目のない感染予防対策や支援を行うために、関連経費については、主に令和3年度の3月補正予算で計上しているところであります。

次に、3つ目として、「環境との共生」であります。

町のシンボル天王山についても、その整備がゼロカーボンの実現に寄与するだけでなく、住民の町への愛着を高める重要なツールであることも考慮した施策を展開して参ります。

次に、4つ目として、「まちの持続的な発展」であります。

まちの活力維持のため、子ども人口を増やし、子育て世代に響く施策を積極的に推進して参ります。

最後に、5つ目として、「暮らしの安心の確保」であります。

「安心安全」は住民生活の基盤でありますので、従来からの継続的な取組を着実に推進して参ります。

次のページをご覧ください。

以上の方針により編成いたしました当初予算案の規模は、61億7,479万7千円であります。

令和3年度との比較では3.1%の増加で、一般財源ベースでも3.0%増加しております。

高齢化の進展に伴う扶助費等の伸びが影響しているところではありますが、地方自治運営の基本原則である「最小の経費で最大の効果」が得られるよう絶えず追求し、同時に小さな行政の実現で健全財政の確立を目指して参ります。

次のページをご覧ください。

各特別会計も含めた予算総額は、合計 108 億 841 万 2千円であります。

次のページをご覧ください。

予算推移として、過去5年間の推移を表示しております。

本年は全会計において、前年度から増額となっておりますが、高齢化の影響が顕著に表れているほか、下水道ならびに水道施設におきましても、必要な設備投資を行うことによるものであります。

次のページをご覧ください。

ここからが個別の事業であります。まず、重点事業といたしまして、先にご説明いたしました「重点施策」に密接に関連する事業であります。

まず、令和3年度の3月補正に計上しているものであります。が、

給食棟整備工事・施設付帯備品調達(大山崎中学校)  
4億1,549万3千円であります。

子育て世代の皆様の切なる願いを実現するために、一丁目一番地の事業として、令和5年度当初からの実施に向けて着実に推進して参ります。

次に、こちらも令和3年度の3月補正への計上事業であります。が、給食棟整備工事・施設付帯備品調達(大山崎小学校) 3億770万1千円あります。

大山崎小学校において、衛生基準に適合した施設により学校給食を提供するために、施設整備工事や備品等の調達を行うものであります。

次のページをご覧ください。

新型コロナウイルスワクチン接種事業 4,845 万4千円  
であります。

新型コロナワクチンの接種について、本年2月より主として65歳以上の方を対象に3回目の接種を開始しているところではありますが、できる限り早期に全世代を対象とした集団接種、個別接種を実施いたします。

続いて、町役場窓口へのキャッシュレス決済導入事業  
24万8千円であります。

住民の皆様の利便性向上のため、また非接触での会計処理を進めることで感染予防を図るため、税住民課住民係の窓口にはキャッシュレス決済端末を設置し、クレジットカードや交通系電子マネーといった現金以外での支払いを可能とするものであります。

次のページをご覧ください。

天王山関連事業 1,367万円 であります。

まず、放置竹林整備事業、再生竹<sup>さいせいちく</sup>整備事業については、従来からの取組を継続するものであります。

十七烈士の墓周辺境界確定事業については、国有地である当該土地を、町がポケットパークとして整備するにあたり、まずは必要となる境界確定を実施するものであります。

展望台眺望確保事業は、旗立松展望台等の展望台からの眺望を確保するために、支障となる樹木を伐採<sup>ばっさい</sup>するものであります。

天王山の将来を考える学習会開催事業は、天王山で活動する団体や幅広い町民を対象として、天王山の環境維持等について、ともに学ぶ機会を設けるものであります。

ハイキングコース維持管理、補修については、例年実施している維持管理に加え、傷<sup>いた</sup>みの目立つ箇所<sup>箇所</sup>の補修を行うことで、安全なハイキングを担保しようとするものであります。

続いて、花と緑のまちづくり事業 60万円であります。

健康増進、生きがい創出、環境への貢献に資するため、住民参加による花と緑のまちづくり活動を支援するもので、令和2年度、3年度に引き続き、ガーデニング教室等を開催することで、参画者を増やそうとするものであります。

次のページをご覧ください。

指定ごみ袋導入事業 136万8千円あります。

ゼロカーボンシティ宣言を表明した本町において、ごみの減量による環境対策を推進するため、サンプル袋を製作し、住民周知・啓発を図るものであります。

続いて、生ごみ処理機購入補助金交付事業 54万円あります。

ごみの減量による環境対策を推進するため、生ごみ処理機を購入する際に交付している補助金を拡充するもので、従来、補助金額の上限を2万円と設定していたところ、上限額を撤廃して購入額の3分の2を補助することとし、処理機の一層の浸透を図るものであります。

次のページをご覧ください。

保育所給食充実事業 524万9千円であります。

町立保育所を利用している3歳児以上の児童に対して、主食を提供するものであります。従来、3歳児以上の児童は主食を持参していただいていたのですが、主食についても保育所で用意することで、保護者の負担軽減を図るものであります。

続いて、3歳児健康診査(視力検査)充実事業 133万1千円であります。

早期に斜視や屈折異常を発見できるよう、3歳児健診時の視力検査の場で、屈折検査を実施するものであります。早期の発見により、就学前の間の<sup>ちゆ</sup>治療につなげることができるものであります。

次のページをご覧ください。

ゆめほっぺ利用促進事業 15万2千円であります。

子育て支援センター「ゆめほっぺ」の利用を促進し、保護者の交流も増やすため、子育て相談等の充実を図るほか、新たな遊具も用意するものであります。

また、現状、火曜日から金曜日までの週4日開館しているところ、月曜日も加えた週5日の開館とし、さらなる利用促進を図ることと致します。

続いて、円明寺が丘団地居住者意向に関するアンケート調査 171万6千円であります。円明寺が丘団地にお住まいの方に対して意向調査を行い、当該地域のまちづくりの方向性を確認するものであります。平成24年度にも同様のアンケート調査を実施しておりますが、改めての直近の意向を確認し、今後のまちづくりの基礎資料とするものであります。

次のページをご覧ください。

防災子ども安全まちづくり事業(道路)

1億6,017万3千円であります。

過年度からの継続事業として、令和4年度は、円明寺が丘団地の既存側溝の暗渠化あんきょにより道路拡幅を行うとともに、町道円明寺線第53号における道路改良や尻江人道橋の整備、歩道未整備通学路のカラー舗装等を行うことによって、通学路の安全確保を図るもので、また、災害時には安全な避難路となるよう整備するものであります。

なお、令和4年度をもって円明寺が丘団地の側溝改修は完了いたします。

以上が、重点事業であります。

次のページからは、その他の事業として、「子育て支援・教育関係」、「地域福祉・高齢者福祉関係」、「社会資本・まちづくり関係」、「文化・スポーツ振興関係」の各分野の、主要事業を掲載しております。その中から、主なものをご紹介します。

15ページをご覧ください。

「地域福祉・高齢者福祉関係」において、老人福祉センター活性化対策事業 40 万円であります。

老人福祉センター「長寿苑」について、現在、施設の愛称を公募しているところではありますが、新しく決定した愛称の看板を設置するほか、利用促進のために体を使って楽しむゲーム機を導入するものであります。

次に、その下の健康ウォーキング事業 9 万5千円であります。

「ある古っ都（あるこっと）」という京都府のウォーキングアプリを活用して、ウォーキングによる住民の健康づくりを促進するものであります。

次のページをご覧ください。

社会資本・まちづくり関係として、一番上の 姉妹都市  
提携事業 92万7千円であります。

英語を公用語とする比較的近隣の海外の都市と姉妹  
都市を提携するための調査研究を行うものであります。

次のページをご覧ください。

同じく「社会資本・まちづくり関係」として、一番上の 住  
民参加のまちづくり促進事業 100万円であります。

住民参画、住民協働のもとで地域課題の解決を図るた  
め、公共課題の解決につながる活動に取り組む団体に対  
して補助金を交付するもので、前年度から継続して制度化  
するものであります。

最後に、「おわりに」ということで、一言申し上げたいと存じます。

先ほども申し上げましたとおり、幸いにして昨今、本町では子育て世代の流入が増えており、若年層を中心とした人口が微増傾向にあります。全国的な傾向を鑑みますと、いずれは少子高齢化のさらなる進展、そして人口減少は不可避であります。

そのことに伴う社会保障関連経費の増加による将来の財政運営については、率直に申し上げて憂慮<sup>ゆうりょ</sup>しているところではありますが、一方で、先送りされてきた都市基盤整備や公民館、学校施設等の老朽化対策は、まったなしであります。

したがいまして、今回の予算につきましては、目の前の短期的な課題の解決と、将来見通しとのバランスを特に慎重に見極めて編成したもので、そうした点からも、「確かな未来へ」の基本コンセプトに沿ったものであります。

とりわけ、私の一丁目一番地の公約である中学校給食の工事費を、3月補正ではありますが、計上いたしており、未来を担う子どもたちのために、そして確かな未来へとつなげるために、何としても実現して参る決意であります。

先人から連綿と引き継がれてきたまちづくりのバトンを、将来世代にしっかりと受け継ぎ、末永くこの町を発展させるために、私の政治信条であります「住民参加のまちづくり」を通じて、「住民と共に歩むまちの創造」を実現して参る所存でありますので、皆様方の更なるご理解とご協力をお願い申し上げます。私からの説明とさせていただきます。